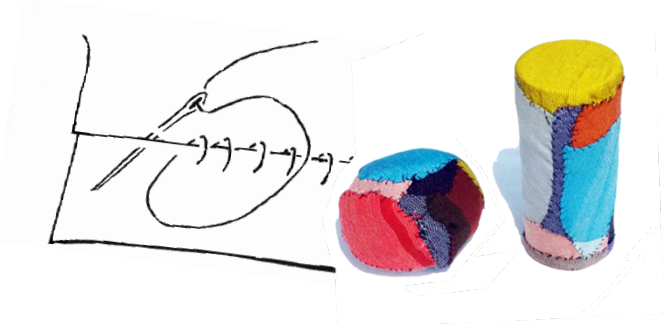


ハレケ



『ハレケ』は、刹那生滅(1)=円環的時間論(2)を新たな表現方法で構築したスカルプチャーです。

時間論をともなう日本人の伝統的世界観である『ハレケ』(3)を作品タイトルにしたのは、このシンプルな3文字が、私の創作の芯になる概念全てを凝縮してくれているからです。海外で発表をする際も、あえて日本語表記のまま使っているのもその為です。

私と素材の巡り合わせは、いつも自然です。

日常的に、使い終わり、ゴミ箱に向かう廃品たち。
人間の価値観で廃品と判断してしまうことを、覆したい思いがありました。

2020年12月~2021年5月、コロナ禍の日本で身動きとれなくなった私の前にググッと接近してきた tamaki niime(4)の播州織(作品にならなかった残布部分)。

まつり縫(5)の動作・プロセスは、私がイメージする円環的時間論、刹那生滅の動きそのもの。

材料・手法・概念が、自然と組み合わせさせて新たなビジュアルを構築することができました。刹那生滅の私自身が、飽和状態を保ち、存続できていることに誇りを持ち、作品がふわりと、自然に放てていけば幸いです。

この作品を、故郷で展示できることは、自身の記憶と、現在の私の存在を繋ぐ円環的時間論の螺旋状の循環の中にも、見えない一本の強い糸が、どんな状況でも心にあることを、表現するために必要な行為であり、サイト・スペシフィックアート(6)のど真ん中を利用したインスタレーション作品になります。

注釈:

(1) 『刹那』『刹那生滅』

仏教思想におけるきわめて短い時間を表した単位。

一刹那の間に人間の意識・一切のものは、生成消滅を繰り返していると言われる(1刹那=0.013秒)。

(2) 世界が始まるが、一定期間経ったら破滅し再生するという、時間が同心円を螺旋状のように回る世界観。

(3) 「ハレとケ」は、民族学・文化人類学者でもある柳田國男(1875-1962)によって見出された、時間論をともなう日本人の伝統的な世界観のひとつです。ハレ(はれ;晴れ;霽れ)は儀礼や祭、年中行事などの「非日常」、ケ(け;褻)は普通の生活である「日常」を表している。私たちの生活活動は、この二分法に分けることができます。

(4) tamaki niime <https://www.niime.jp/> 2021年日本グッドデザイン賞受賞

(5) "布の端を折って糸を布の内側から外側に回しながら縫うこと。

"裏表を縫い合わせること"これがつまり「ハレ」と「ケ」と比喻され、「まつり縫」という名称が付いたとされる。

(6) 芸術作品やプロジェクトの性質を表わす用語で、その場所に帰属する作品や置かれる場所の特性を活かした作品、あるいはその性質や方法を指す。制作者が場所を最も考慮している作品と言える。

AYUMI ADACHI

1972年兵庫県西脇市出身。1994年大阪芸術大学卒業。1996~2023年、香港を拠点に活動。

1992年より兵庫、大阪、東京、神奈川、京都、新潟、群馬、宮城、上海、香港、マカオ、台湾、ベトナム、フランス、インド、ブルガリア、ポルトガル、ドイツ、アルメニア、チェコで作品発表。2021年・第24回岡本太郎現代芸術賞に入選。

2023年より拠点を郷里・兵庫県西脇市に。

2024年12月15日より兵庫県西脇市岡之山美術館展覧会「子午線上のアートII」展

www.ayumiadachi.wordpress.com

